

地域の会六ヶ所村視察概要 2005/9/16-17・9/22-23

視 察 先	日本原燃（株）原子燃料サイクル施設（青森県六ヶ所村）
視 察 日 時	平成17年9月16日(金)・22日（木） 13時30分～16時50分
視 察 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・六ヶ所原燃PRセンター ・ウラン濃縮工場（車中） ・低レベル放射性廃棄物埋設センター（展望台） ・再処理工場中央制御室（ギャラリー） ・高レベル放射性廃棄物貯蔵施設（ギャラリー） ・再処理工場建設現場（車中）
9/16 参 加 者	<p>－委員－ 新野・浅賀・石田・井比・伊比(隆)・久我・佐藤・三宮・中沢 宮崎・吉野・渡辺(五) 委員</p> <p>－オブザーバー－ 柏崎刈羽地域担当官事務所 早川所長 東京電力 守GM・杉山主任 柏崎市 桑原主任</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター 木村</p>
9/22 参 加 者	<p>－委員－ 渡辺(丈)・伊比(智)・金子・川口・杉浦・武本・千原・前田 委員</p> <p>－オブザーバー－ 東京電力 西田部長・阿部副長 柏崎市 名塚係長</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター 押見事務局長</p>

9/16 視察分

◆質疑応答

- 最終処分を六ヶ所ではやらないのか。
 - ・ 当初の計画では、最終処分は入っていない。
- 様々な問題が起きたとき、地元住民からの苦情の声はあがるのか。
 - ・ 当然、何か起これば苦情はあがる。事業者としても説明をするし、地元自治体も説明をして、住民の理解を得るよう努力している。

- ▶ ガラス固化体の収納庫の換気はどのようになっているのか。
 - ・ 自然のまま、何もしていない。
- ▶ イギリス（ソーブ再処理工場）で事故があったことで、六ヶ所の施設では改善している点はあるのか。
 - ・ 基本的に構造はフランスのものと全く同じ。
- ▶ イギリスでの事故をどのように考えているか。
 - ・ イギリスとは設計が違っている。配管がつり下げ式のものがイギリスでは使われているが、日本ではそういった設計にはなっていない。

◆意見交換

〈委員〉自分たちの子孫に負荷を残したくない。エネルギーを維持していきたいのか、無くなっていった方がいいのか…。

〈委員〉地球のエネルギーのほぼ半分くらいは掘り尽くした。2000年以降は確実に石油の値が上がっていく。そんな事情の中で、プルサーマルや高速増殖炉というような話が出てきた。ウラン鉱石を海外からわざわざ持ってきて濃縮するという作業だが、これが果たしてエネルギーを的確に使う方法としてどうなのか。MOXのほうへ今後いくべきというような流れになっているが、世界でまだ4000体くらいしかない。この程度のことで実績があると言えるのか。

〈委員〉六ヶ所村の情報公開というのは、どのようにして行われているのか疑問に思った。このような地域の会のような存在はないはず。環境や地域ということを見ると、どういう形でどういう風な情報公開をされていくのかやはり考えてしまう。

事業所にとっては、これからのエネルギー政策は背負っていかなければならないものなので、今回の視察はそういった意味でも勉強になった。この核燃料サイクルも含めて、これからはどれだけ全体を見ながら物事が言えるかが大切になってくるのでは。

〈委員〉いろんな分野の人たちと、一緒に勉強できたことが大変有意義であった。

〈委員〉有意義な視察だった。原子力も大切だが、無農薬の野菜を作っていることもあり、環境に優しい太陽光等のエネルギーについてなど、広い視野で考えていくべきかと。

〈委員〉今回の説明者は大変話がわかりやすかった。それだけの自信を持っておられるんだろうと思った。再処理するところはここしかないこともあり、自信につながっているのかと。いろんな意味で勉強になった。

〈委員〉生産地側も消費地側も、本心で話しあっていかなければならないと思う。消費地は経済的な負担をしているし、生産地は精神的な面で負担を払っている。もう少し全体的に日本のエネルギーについて討論することが大切なのは。被害者とか加害者とかでなく、本音で話し合っていく大切さを感じている。

六ヶ所村の人たちは、あとの処理を全て背負っているわけで、そういった状況を立地地域の人間は理解していく必要がある。

〈委員〉発電所の老朽化の報告はない。老朽化の指標をどこでみとるかというのは誰もわからない。こうした報告をもらいたい。地域の会としても、こうした報告をもらうことをやっていくべき。

〈オブザーバー〉将来どうなるかはわからないが、共存共栄をしていかなければならないし、向上していかなければならないと思う。地域の会というのは、それなりに個人を尊重しながらというのが第一なので、これからもいい意味で存在して行ってほしいと思う。

〈オブザーバー〉個人的にも有意義な視察であった。発電所のみならず、こうした施設を見学することで、原子力に関する知識を広めてもらい、活発な議論をしてもらいたいので、今回のような機会はありがたいと思う。

〈オブザーバー〉消費地と生産地の交流に関する仕事をしていたこともあり、生産地の人々がどのように思っているのかを知りたくて、柏崎の地に転勤してきた。消費地と生産地の意識の違いは感じている。お互いのリスクを理解しあって、消費地の人々が立地地域を少しでも理解できるような仕事をしていきたいと思う。

9/22 視察分

◆質疑応答

- PR センターの建家にアスベストは使われていないか。
 - ・ アスベストを使用しなくなってから建てられた為、使われていない。
- 従業員数と構成はどのようになっているのか。
 - ・ 約 2,000 人で、その 6 割が原燃（8 割が地元青森）、4 割が東電等からの出向者。女性は非常に少なく 5%程。
- 再処理工場中央制御室の勤務体制はどのようになっているのか。
 - ・ 5 班 3 交替で 8 時間勤務。
- 高レベル放射性廃棄物容器を空気を取り入れて冷やしているが、空気は何度位に成るのか。また、その熱の利用は出来ないのか。
 - ・ 約 50 度。温度が低いので再利用はしていない。
- 先般空気取り入れ関係のトラブル（設計ミス）があった場所は六ヶ所のこの施設か。
 - ・ ここの施設だが、これから増設する施設。
- 低レベル放射性廃棄物を 300 年間管理と説明があったが、具体的に何をするのか。
 - ・ 3 段階に分けてそれぞれ環境モニタリング・周囲に漏洩等がないかの監視チェック等を行う。

- クリスタルバレーの構想は何処が主体性を持つのか。
 - ・ 青森県。
- 六ヶ所村の村会議員数はどれくらいか。また原燃関係の議員はいるのか。
 - ・ 議員数は 20 人。原燃関係（会社関係者）の議員はいない。
- 村の税収について聞かせてほしい。
 - ・ 平成 16 年度は、村の一般会計予算が 130 億円。その内、村税収入が 83 億、うち固定資産税が 77 億、うち原燃分が 60 億。使用済み燃料に対する税金は、BWR で一体当たり約 400 万円（¥23,800/kg * 170 kg）。PWR はこの 2.2 倍。
- 六ヶ所村は地方交付税は、交付されているのか。
 - ・ 不交付団体。
- 低レベル廃棄物埋設センターで、ポーラスコンクリート層を通った水が排水・監視設備に貯まった後、最終的にはどうなるのか。
 - ・ モニタリングして異常が無ければ排水する。
- 再処理・プルトニウムと云うことで、核不拡散の問題や経済的に問題はないのか。
 - ・ 日本は国際的に決められた条件の中で再処理が認められている。県や国、IAEA の監視の下で、全てオープンにして行っている。経済的にオーケーなのかについては、今後の経済変動等もあるので、現状から判断すれば充分採算性はあると考える。
- 各機関の査察があると云うが、企業秘密もあるのでは。
 - ・ 確かに技術的な部分はあるが、どれだけ投入して何がどれだけ出来たか、何をどれだけ動かしたか等々をオープンにしている。フランスのコジマ社及び動燃等の技術導入。
- 地元の合意は得られているのか。
 - ・ 当初計画段階では激しい反対運動等もあったが、現在は以前のような反対運動はないと理解している。ただ、決して馴れ合いにならないよう、コミュニケーションをはかり理解を得るようにしていきたい。
- 高レベル廃棄物の貯蔵期間は 30 年とか 50 年とか言っていたが、燃料の燃やし方によって違ってくるのではないかと。もっと長いものもあるのでは。
 - ・ 放射エネルギーの多くは半減期の比較的短いセシウムやストロンチウムで、若干の違いはあるが、そう大きく変わるようなことはない。前段階（発電所から出る時及び当所に入る時）でチェックされている。
- 高レベル廃棄物の 30 年とか 50 年の貯蔵期間やいろいろな数値的なこと等の基準は、誰がどういう機関が決めるのか。
 - ・ 調べて後日回答する。